

A)以下に参考になった点を述べます。得票数が最も多かった「オムライス」チームは、酒田レインボーロード作戦というマリオカートから着想を得たキャッチーなタイトルを出していました。これは、学生のための投票という、最も印象を残したものが投票を集めるという状況において、有効な作戦だと感じました。また、メリット・デメリット重視で説明をしていました。テンプレート通りの部分は最低限で、大事なことを多く説明することは、分かりやすくいいと思いました。2番目に得票率が多かった「FOODS」チームは、仮想通貨を中心に考えていました。やはり、何か一つのを起点にしてまとめることは、想像しやすいかつアイデアも浮かびやすいと分かりました。仮想通貨で、公共交通、商店街などのサイクルを作ると考えていました。循環を作るとは、イメージが浮かびやすく、図も作れて信用度が上がると思いました。「チーム Variety」チームは、交通事故の原因の重要度を記号で表すことでランク付けをしていました。優先順位を作ることによって、最も解決すべき課題が分かり、それに付随して他の問題も解決することができます。

B)以下に地方都市における交通問題の総合的解決に向けた意見を述べます。  
**MaaS を中心にした段階的な取り組み**

他チームから学んだ「一つの核となるアイデア」を参考に、自分たちの提案を整理し直すと、MaaS を中心に据えるのが良いと考えます。MaaS とは、公共交通機関をアプリ一つで検索・予約・支払いができるシステムのことです。これにより、自身のチームが掲げた三つの柱「デジタル・ガバナンス」、「自動運転」、「AI・インフラ」を一つにまとめられます。第一段階として、既存の公共交通機関を MaaS アプリに統合します。「FOODS」チームの循環モデルを参考に、アプリ内でポイントを貯めて商店街で使える仕組みを作ります。すると、公共交通を使えば使うほどお得になるため、車依存から抜け出しやすくなり、地域経済も活性化すると考えます。また、利用データを分析すれば需要予測ができ、効率的な運行計画が立てられるため、人手不足の解消にもつながります。第二段階として、利用者の少ない時間帯や地域に AI 配車システムを導入します。まず、高齢者の多い地域や交通手段のない地域を優先します。決まったルートを走る従来のバスよりコストが安く、利用者の要望に応じて柔軟に動けるため、免許を返納した高齢者の移動手段として有効です。第三段階として、自動運転シャトルを少しずつ導入します。始めは、大学キャンパスや観光地など限定された場所で実験を行い、うまくいけば範囲を広げていきます。これにより運転手不足が解消され、高齢者や若者の事故も減らせます。

## 安全性を高めるための AI とインフラ

まず、見通しの悪い交差点や通学路に、AI を搭載したカメラとセンサーを設置します。子どもの飛び出しや高齢者の横断、自転車のながら運転などを検知して、ドライバーに警告を出すことができます。単純に事故の減少を減らせますが、確実に初期費用がかかることとなります。AI 自動運転を導入する

には、事故が起きた時の責任の所在が重要な問題になります。メーカーがすべて責任を負うのなら、開発なんてしないし、所有者が責任を負うのなら、買おうなんて思いません。そのため、私は、自治体の責任範囲を法律で明確にし、保険制度を整えることで、導入への不安を減らすことができると考えます。そうすることが、最も効率がよく、信頼を得るルール作りだと考えます。

## 段階的に進めるメリット

自分たちの提案は、他チームと比べて技術的に高度で時間がかかる内容だったと理解しました。しかし地方都市の交通問題は複雑で、すぐには解決できないからこそ、段階的に着実に進めることが大切だと考えます。短期的には、MaaSの導入と危険箇所へのAIカメラ設置など、実現しやすいものから始めます。長期的には、AI自動運転が成熟してから導入し、人手不足と事故の両方を根本から解決します。「チーム Variety」チームを参考に、限られた予算をどこに使うか優先順位をつけ、最優先は「高齢者の移動手段の確保」と「交通事故の減少」であり、これらを解決すれば、免許返納が進み、公共交通の利用が増え、事業者の経営も改善するという良い循環が生まれると考えます。

## まとめ

地方都市の交通問題は、高齢化、人口減少、車依存、人手不足といった様々な問題が絡み合った複雑な課題です。これを解決するには、MaaSを核としたデジタル化を段階的に進め、同時に経済が循環する仕組みを作ることで解決すると考えます。しかし、実現性などまだまだ課題があるのは事実です。そのため、段階的なシステムを構築していくことで、持続可能な地方都市の交通システムが作れると考えます。